



平成 29 年 5 月 9 日

各 位

会 社 名 株式会社 SCREEN ホールディングス
代 表 者 名 取締役社長 垣内 永次
(コード番号 7735 東証 第1部)
問 合 せ 先 執行役員 経営企画室長 石川 義久
TEL (075) 414-7192

中期 3 カ年経営計画「Challenge 2019」策定に関するお知らせ

当社は、このたび、2018 年 3 月期を初年度とする中期 3 カ年経営計画「Challenge 2019」を策定いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 中期 3 カ年経営計画「Challenge 2019」策定の背景

当社グループは、2015 年 3 月期～2017 年 3 月期の 3 カ年におきまして中期 3 カ年経営計画「Challenge2016」に取り組んでまいりました。この間、セミコンダクターソリューション事業では、スマートフォンの需要拡大を背景にした継続した最先端投資やIoTに代表される新しい領域の拡大による追い風と、絶え間ない収益構造改革により、売上・収益とも拡大することができました。グラフィックアンドプレジジョンソリューション事業では、一定の売上規模の拡大は見られたものの、デジタル印刷機市場の競争激化などにより、収益性が低迷する結果となりました。また、ファインテックソリューション事業では、中国市場での設備投資意欲が旺盛な中、時宜を得た活動と新規分野への取り組みにより、当初予想を上回る好業績を残すことができました。

このような背景から、計画で目標に掲げた、①「収益構造改革を完遂し、高収益体質へ」として、最終年度において営業利益率 10%以上、②「新規領域での事業化」、③「財務体質の強化」として、最終年度末において自己資本比率 50%以上、に対して新規領域での事業化に関しては遅れはあるものの、一定の成果を出すことができました。

われわれを取り巻く事業環境は、変化が激しく、スピードとイノベーションが求められるものの、常にビジネスチャンスは存在し、市場としても成長し続けるものと認識しております。そのような環境の下、今年度から 3 年間で新たに取り組む、中期 3 カ年経営計画「Challenge 2019」では、前中期経営計画で確立した収益構造と財務基盤を維持するとともに、「グループの成長と質の向上」を目指し、持続的な利益創出や株主還元などを推進してまいります。また、次の成長に向けた積極的なアクションとして、成長に向けたリソースの配分およびオープンイノベーション、M&A も選択肢として取り組んでまいります。

2. 基本コンセプト

「グループの成長と質の向上」

3. 目標

①売上規模の拡大

単年度売上高 3,000 億円レベル

②収益性の維持・向上

最終年度の営業利益率 13%以上

③資本効率の維持・向上
ROE15%レベル

※上記3項目の数値目標はオーガニック・グロースを前提としております。

4. 主たる取り組み

- ①既存事業における損益分岐点売上高比率の改善
売上の変動に応じた損益分岐点売上高のコントロール
- ②装置ビジネスをベースとした周辺領域における収益基盤の確立
改造を含むポストセールス(印刷分野においては消耗品ビジネスも含む)のさらなる強化
- ③一定の財務規律を維持しながらも、積極的に成長投資を実行
効果的なM&Aの検討・実施。オープンイノベーション戦略としての研究機関、他社などとの協業、業務提携、ベンチャー企業への出資・支援などの検討・実施
- ④ESGに重点をおいたCSR経営の推進
E:「環境価値」を創造し、低炭素・循環型社会への貢献
S:ディーセント・ワーク(働き甲斐のある人間らしい仕事)の実現と、社会的価値の創造
G:守りと攻めのガバナンス体制の推進とESG情報の開示
- ⑤株主還元の充実
連結総還元性向 25%以上を目指す

上記における将来数値は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。

*ESGとは、環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の頭文字を取ったもの

以 上